

1 札幌市の温室効果ガス排出量の推移と内訳

- 札幌市の温室効果ガス排出量は、節電や省エネの取組、電力排出係数の影響などにより2012年をピークとしておよそ30万t-CO₂/年の減少ペースで推移している
- 家庭・業務・運輸の3部門で市内CO₂排出量の約9割を占めている
- 電力が約半分、灯油とガソリンをあわせると全体のおよそ4分の3を占めている

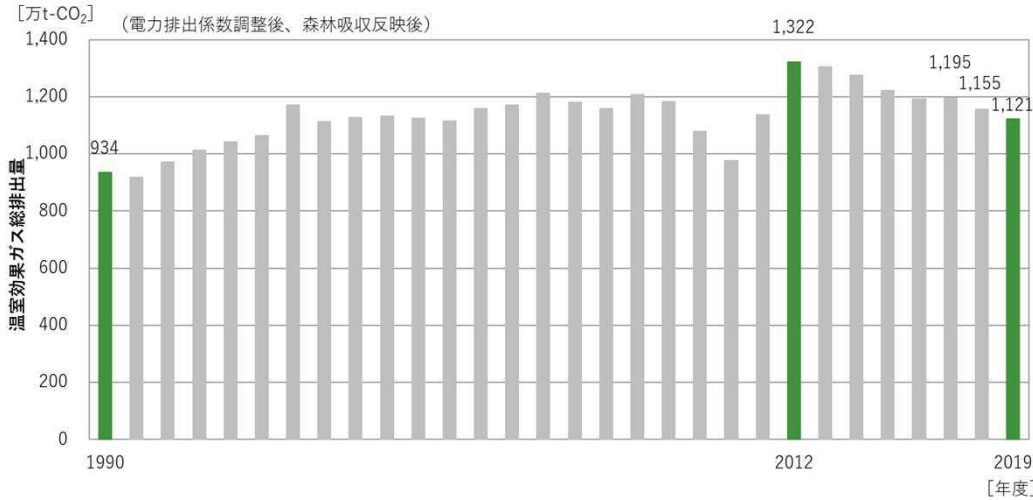


図1 札幌市における温室効果ガス排出量の推移

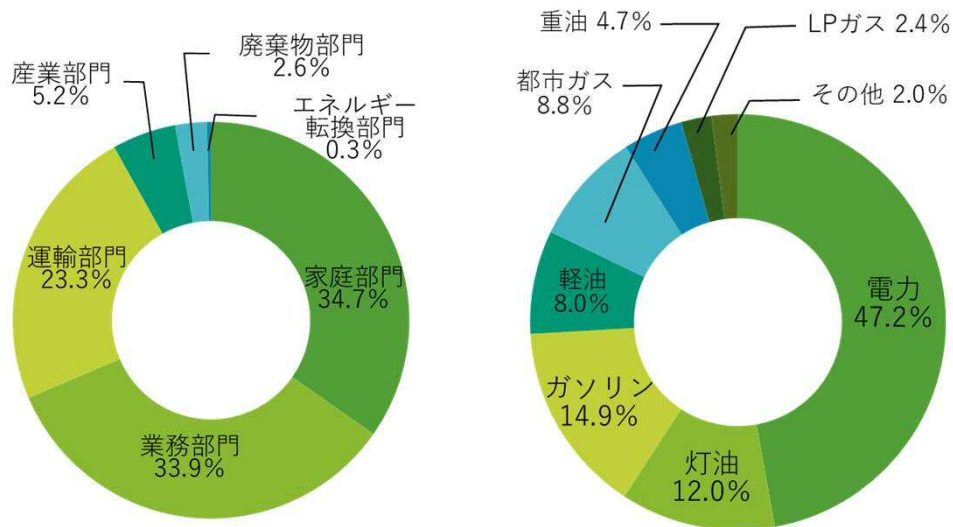


図2 札幌市におけるCO₂排出量の部門別内訳 (2019年)

図3 札幌市におけるCO₂排出量のエネルギー種別内訳 (2019年)

- 【家庭部門CO₂排出量】 照明や家電などの電力が52.0%、暖房や給湯用の灯油が32.8%
- 【業務部門CO₂排出量】 照明や空調動力などの電力が71.7%
- 【運輸部門CO₂排出量】 自動車用のガソリンや軽油が95.8%

家庭部門

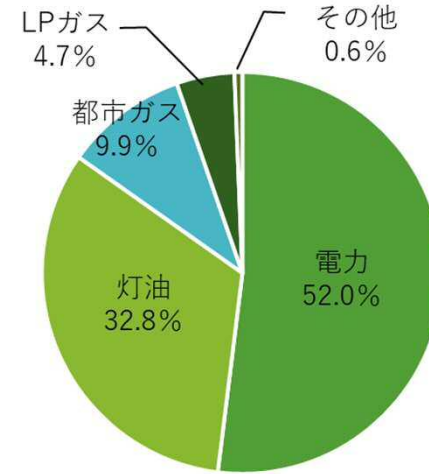


図4 家庭部門CO₂排出量のエネルギー種別内訳 (2019年)

業務部門

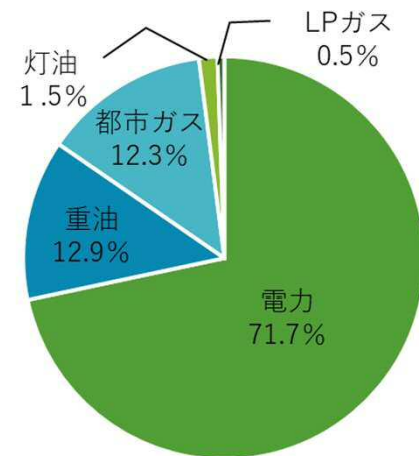


図5 業務部門CO₂排出量のエネルギー種別内訳 (2019年)

運輸部門

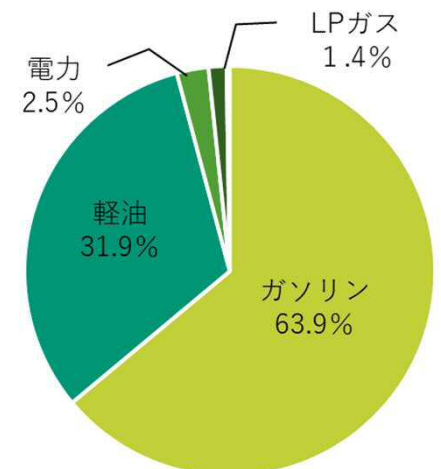


図6 運輸部門CO₂排出量のエネルギー種別内訳 (2019年)

2 主な取組の実施状況

表1 温室効果ガス排出量削減に向けた主な取組の実施状況（2020年度）

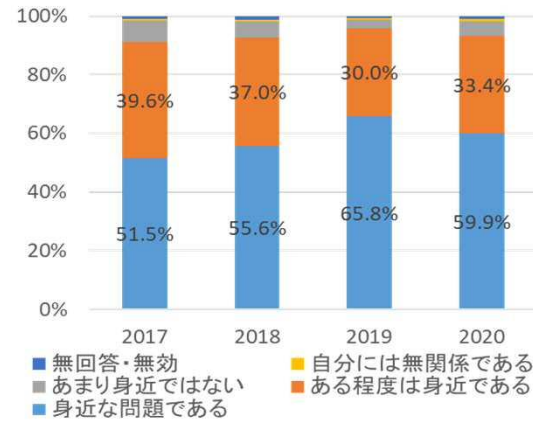
取組内容		2020年度
家庭	高断熱・高气密住宅の普及	✓ 『札幌版次世代住宅補助制度』による高断熱・高气密住宅への補助、『札幌市住宅エコリフォーム補助制度』による省エネルギーフォームへの補助
	省エネ・再エネ機器の普及	✓ 『再エネ省エネ機器導入補助制度』による支援
	省エネ行動の実践	✓ 市立小中学生への『エコライフレポート』配付による、夏休み・冬休みのエコ行動推進 ✓ 気候変動対策に主体的に取り組む人材の育成を目的としたゼミ・ワークショップの開催
産業・業務	省エネ・再エネ設備の普及	✓ 『ゼロエネルギー・ビル、ゼロエネルギー・マンション設計支援補助金』によるZEB・ZEH-Mの普及促進 ✓ 建築主、施工業者の双方に光熱費等の削減効果をわかりやすく示す「建築物の光熱費の見える化ツール」作成・公開
	省エネ行動の実践	✓ 「省エネの顧客となる市内事業者」と「省エネの担い手となる市内施工業者」をつなぐ省エネルギーの総合窓口による受注と省エネルギー施工
	環境産業の振興と人材育成	✓ 『札幌型環境（エネルギー）製品・技術開発支援事業』による環境関連技術・製品の開発と販路開拓・拡大の支援
運輸	次世代自動車の導入	✓ 『札幌市次世代自動車購入等補助制度』による電気自動車（EV）、燃料電池自動車（FCV）、V2H充電設備等の導入補助
	エコドライブの推進	✓ 「環境広場さっぽろ2020バーチャルツアー」の仮想出展ブースにおける動画・ポスターの展示
	公共交通の利用促進	✓ 札幌周辺公共交通案内（さっぽろえきバスナビ）へのバスロケーション機能追加
みどり	みどりの保全	✓ 白旗山都市環境林における間伐の実施
	みどりの創出	✓ 市民参加型の育樹体験イベントの開催や、企業や団体との協定、森林ボランティア制度などによるみどりづくりの推進
	みどりの活用	✓ 道産木材の札幌市内・市内近郊における普及促進に向けた庁内関係部局や関係団体との情報交換
廃棄物	ごみの減量・リサイクル促進	✓ ごみ減量キャンペーン（食品ロスの削減や生ごみの水切りなどの啓発）の実施
	廃棄物発電・熱利用の推進	✓ ごみ焼却時に発生する熱エネルギーの利用による自家発電と熱供給
エネルギー	再エネ機器の普及・拡大	✓ 『再エネ省エネ機器導入補助制度』による支援（再掲）
	分散電源の普及・拡大	✓ 『再エネ省エネ機器導入補助制度』による支援（再掲）
	エネルギーネットワークの強化	✓ 札幌駅前通地下歩行空間への熱導管幹線整備や、都市開発において省エネビルへの建替えを誘導する制度構築に向けた詳細検討

3 市民アンケート結果抜粋

- 調査対象：住民基本台帳から無作為抽出した18歳以上の市民3,000人
- 調査期間：令和2年10月23日から11月27日
- 有効回答数：1,320人（回答率44.0%）

問 あなたは「地球温暖化による気候変動」を身近な問題だと思っていますか。

➔ 「身近な問題である」の割合が6割程度



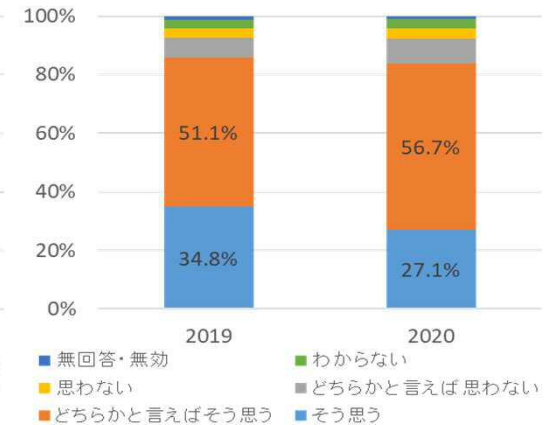
問 あなたの家庭では暖房にどのようなエネルギー・燃料を使用していますか。

➔ 「灯油」が減少傾向、「ガス」は増加傾向、「電気」は横ばい



問 温暖化や気候変動の進行を食い止めるために、自身の暮らしや習慣を変えていかなければならないと思いますか。

➔ 「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」で8割以上



問 あなたはSDGsについて知っていますか。

➔ 「具体的な内容まで知っている」は増加傾向の一方、「全く知らない」が5割程度



※ 「SDGs」という言葉は知っているなど